

手結のスランプ褶曲の松江市指定文化財への指定について

7月30日（火）に開催された令和6年度第1回松江市文化財保護審議会（会長 佐藤 信）において、以下の文化財を松江市指定文化財に指定することについて諮問したところ、指定すべきとの答申がありました。概要は記載のとおりです。

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| 1. 種 別 | 天然記念物 |
| 2. 名 称 | 手結のスランプ褶曲 |
| 3. 員 数 | 1 所 |
| 4. 時 代 | 前期～中期中新世（約 1600 万年前） |
| 5. 面 積 | 316.0 m ² |
| | 内訳 1645-15 のうち 308.65 m ² |
| | 1645-10 のうち 7.35 m ² |
| 6. 所 有 者 | 漁業協同組合 JF しまね、島根県 |
| 7. 所在の場所 | 松江市鹿島町手結字中組 1645-15、1645-10 |
| 8. 指 定 基 準 | （令和 6 年 8 月 9 日 松江市告示第 425 号） |

4 記念物

(3) 天然記念物

ウ 次に掲げる地質鉱物のうち、学術上貴重で、松江市の自然を記念するもの

(ウ) 地層の褶曲及び衝上

9. 指 定 の 理 由

「手結のスランプ褶曲」は、約 1600 万年前海底で起こった地すべりによって生じた特異な変形を示す地層をいう。その変形はコンパクトに完結しており、海底での地層の変形過程を陸上で観察することができる点で非常に学術的価値が高い。またこのスランプ褶曲は、形成時に地層が折れて壊れたりすることが殆どなく、可塑的に折り畳まれ、独特な褶曲美を作り出している極めてまれな例であることもその特質的価値として挙げられる。

10. 資料の性格・概要

スランプ褶曲とは、海底や湖底など水底に堆積した地層が、その後に起きた水底での地すべりにより、局所的に著しく変形し曲がった地層を言う。

「手結のスランプ褶曲」は、約 1600 万年前の海底に堆積した地層（成相寺層）に見られる。この地点に露出する地層は、礫岩、凝灰質の砂岩、泥岩、凝灰岩、ペペライト（溶岩が未固結や半固結状態の堆積物に触れて、破片状になったもの）からなり、深海の海底斜面を流れ下った地すべりだけでなく、土石流などの水中での流れによって形成されたものである。スランプ褶曲を示す地層は泥岩で、出来立ての餅のように粘着力があるために、柔軟に変形して、まるで大蛇がうねるような褶曲となった。この海底地すべりの原因としては、地震や火山活動があげられる。

水底で発生する地すべりは、一般的に陸上の地すべりより規模が大きい。世界最大級の海底地すべりは、発生域から停止線までが 300km 以上に及ぶ。山陰沖でも海底地すべり堆積物が知られており、水平距離でも 30km を超えて連続する。スランプ褶曲も一般的には規模が大きく、1つの崖でスランプ褶曲の全体を観察できる場所はまれである。

「手結のスランプ褶曲」は、規模が小さく、非常にコンパクトである。今回指定対象とす

る長さ約 20m、高さ約 10m 程度の小さな崖でスランプ褶曲全体を観察することができるものは貴重である。このスランプ褶曲は、我々が直接見ることができない深海底での地層の変形過程を陸上で観察し理解できる格好の学習素材でもある。



手結のスランプ褶曲（近景）



手結のスランプ褶曲（遠景）



手結のスランプ褶曲（部分）